

巻頭言

STEAM Lab 紀要（第2号）創刊にあたって

小谷卓也*

2021年度末にSTEAM Lab 紀要の「第1号（創刊号）」を、またこの度「第2号」を無事刊行することができました。本号では、教育学部の専攻や学部の枠を越え、特集論文5本、自由論文11本（原著論文（査読あり）2本を含む）の計16本もの論文を収録することができました。これもひとえに様々な学部の先生方、職員の方々、出版会社の方々のご協力、ご尽力の賜です。厚く御礼申し上げます。

さて文部科学省の「STEAM教育等の各教科等横断的な学習の推進」は、「急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められています」と述べています。これは文部科学省が「各教科等横断的な学習」を、従来の「文系」や「理系」といった枠における専門性の習得と同時に、課題によっては、これらの枠を越えて「知」を結集し、課題解決や新しい価値の創造を行っていく学習と考えていると解釈できます。この様な「各教科等横断的な学習」の1つの具体的な姿として「STEAM教育」を挙げているのです。

文部科学省は、「Science、Technology、Engineering、MathematicsのSTEM分野が複雑に関係する現代社会の問題を、各教科・領域固有の知識や考え方を統合的に働かせて解決する学習」である「統合型のSTEM教育」に、初期は「Arts（デザイン、感性等）の要素」を加えたもの、近年では「Liberal Arts（A）の考え方に基づいて、自由に考えるための手段を含む美術、音楽、文学、歴史に関わる学習」などを取り入れたものを「STEAM教育」としています。

「統合型のSTEAM教育」の理念に立って、本学のSTEAM Lab 紀要では、自らの専門的学問領域における知識・技能を習得すると同時に、専門外の学問領域にも深い関心を持ち、相互の関連性をはかる視点を読者に提供することを重要な理念として編集を行ってきました。2020年度の第1号（創刊号）でも述べましたが、具体的には、以下の3つの機能を有する研究紀要にしたいと思っています。

- (1) 自分の専門領域・分野以外において、誰がどのような研究及び実践を行っているのかを知ることができる
- (2) 自分の専門領域・分野と関連する他の専門領域・分野を見つけるきっかけとなる
- (3) 様々な専門領域・分野を関連付けし、さらに融合することで新たなアイデアを創出する機会を得ることができる

*大阪大谷大学 STEAM Lab 長

この様な理念を実現する方法の1つとして、本紀要では個々の投稿者がその専門性について論を展開する「自由論文」に加え、様々な専門領域において「誰がどの様な研究及び実践を行っているのか」を読者に知っていただくための企画として「特集論文」を設けました。第1号（創刊号）では、教育学部の専攻の枠を越えて各分野・領域の先生方にご投稿いただきましたが、第2号では教育学部に加え、文学部（日本語日本文学科・歴史文化財学科）、人間社会学部（人間社会学科）、薬学部の先生方にもご投稿の依頼をさせていただき、ご快諾いただきました。この様な様々なご専門の先生方が、日々追求されておられる大変興味深いご研究の一端を、本研究紀要を通じて読者の皆様に知っていただくことで、専攻や学部を越えた研究の交流や共同研究が促進されることを切に祈っております。

上記の本紀要制作の意図をご理解いただき、専攻、学部、学内外の垣根を越えて、様々な研究者、実践者、学生、院生の方々がご自身が最も興味を持って取り組んでおられる研究・実践について、小稿でも結構ですので、継続的にご投稿いただきますよう、心からお待ちしております。次の第3号もどうかご期待いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【参考文献】

文部科学省：STEAM教育等の各教科等横断的な学習の推進、

URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/mext_01592.html（最終確認：2022年3月）